



馬の学校

馬の学校通信 2008.12 vol.32



発行 馬の学校

事務局 〒409-0115 山梨県上野原市松留 645 ハイム上野原 206 TEL/FAX : 0554-63-5534

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ : <http://www.horseschool.org>



秋のプログラム 活動報告

馬とのふれあいプログラム (服部 10/5,11/15,12/13)



「気持ちいいなあ～」



大きな馬に乗りました



馬小屋そうじ中です



「角さん、こっちだよ」

馬とのふれあいプログラム (枚方 10/26)



手綱操作の練習中



「早く食べたい・・・」

ファミリープログラム (和知 10/25)



「きれいにしてあげるね！」



みんなで記念撮影です



2008年 活動報告

- 3月 2日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 4月 19日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 4月 20日 ファミリープログラム (和知)
- 5月 24日 馬とのふれあいプログラム (枚方)
- 7月 29日 大阪 YMCA 国際専門学校
乗馬体験プログラム (和知)
- 8月 18～22日 帝京科学大学 実習 (清里)
- 8月 25～28日 ウマキャンプ (清里)
- 10月 5日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 10月 25日 ファミリープログラム (和知)
- 10月 26日 馬とのふれあいプログラム (枚方)
- 11月 15日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 12月 13日 馬とのふれあいプログラム (服部)

保護者へのアンケートから

ウマキャンプ

参加する前に期待していたことは

- ・乗馬や馬の世話を通して動物や人への「思いやり」を持つ。
- ・子どもの精神面での成長を期待していた。

子どもにとって良かったと思うことは

- ・昨年の経験や和知の体験から、今年は昨年以上に馬の世話がよくできた様で、自信がついた様子。
- ・思っていた以上に喜んで帰ってきた。

子どもが変わったと思うことは

- ・人に対する接し方が優しくなり、何かがあった場合にははっきり物を言うようになりました。
- ・小学校生活において授業では手を挙げる回数が増えた。その他委員会・係等では進んで活動できた





おすすめHP



「おがわじゅりの馬房」

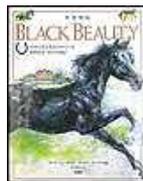
前月号で紹介した「元競走馬のオレっち」の作者、おがわじゅりさんのブログです。ほとんどが「馬ネタ」ですし、毎月カレンダーの配布があるので楽しめます。とある日（2008/8/2）のテーマは「馬のストレス発散方法」について。馬たちへのアンケートから、3位はおもちゃで遊ぶ、2位は砂浴び、では1位は・・・？番外編も必見です。

<http://jurinobabo.exblog.jp/>

12月のカレンダー



おすすめの本



『Black Beauty 黒馬物語』

アンナ・シューエル作、
ヴィクター・アンブラス画、
阿部和江訳 分園社

19世紀のイギリスを舞台に繰り広げられる、ブラックビューティーの一生の物語です。馬の視点から書かれており、人と馬との関係を考えさせられます。また時代や文化の背景、使用されている馬具等について、絵や写真を使って子どもにも分かりやすく説明されています。大人でも十分に楽しめる一冊です。

障害飛越競技

※障害は障害と表記することもあります。

日本では『乗馬＝障害飛越』と思われがちですが、確かに最も乗馬人口が多い種目です。決められたコースどおりに、設置された障害（バー、壁、水濠など）を飛越して通過する競技です。様々なクラスがあり、コースの難しさ・障害の高さや幅で分類されています。ワールドカップクラスの大障害になると、高さ160cm以上の障害も登場します。

減点方式で採点されるため障害をすべてクリアして回ってくるのが一番の好成績で、同じ減点数の中ではタイムの早い人馬が勝者となる場合と、同減点者でもう一度難度をあげたコースを回って勝敗を決めるジャンプオフを行う場合とがあります。障害を落とす他にコースを外れることも減点対象で、馬が同じ障害を3回（海外では2回）飛ぶのを嫌がる、落馬するなどは失権（失格）になります。

ちなみによく見ると障害の左右には赤と白の小さな旗が立っています。これは障害への進入方向を示していて、例えば練習でも必ず赤が右手に来るように飛ぶことで衝突事故を防ぐ役割もあります。（幸田郁代）



全日本学生馬術連盟HPより



編集後記

毎年のことながら「師走」の名前どおり走りまわる毎日ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

12月に初めてふれあいプログラムを行いました。天候に恵まれてそれほど寒くなく、楽しく活動をおこなうことができました。今年のべ参加者は45名、お手伝いいただいたボランティアの方はのべ27名でした。馬を通じたたくさんの方の出逢いに感謝の気持ちでいっぱいです。

大学の方では、10月半ばから馬3頭の飼育を始め、学生の実習や地域の学校へのプログラムの提供、市民へのふれあい体験の提供を行っていく予定です。3頭のうち1頭は、小須田牧場でウマキャンプでも活躍してくれていた「チョコレート」です。力持ちで、でもおっとりした性格のチョコはみんなの人気者となっています。馬たちと共に、この領域の発展に貢献できるようにがんばってきたいと思います。では・・・楽しいクリスマスと良いお年を！

（峯崎友香理）